

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2017.12.25 と新年の合併号 No. 311 東京・羽村平和委員会発行



フレアの一部を遺失→フレアが分解、充填物も紛失 初めてのこと

12月3日午前0時頃、横田基地所属 C-130J から部品の一部が遺失していたことが発見されましたが、いつどこで遺失したか不明でした。北関東防衛局は「本件についてできる限り正確かつ詳しい情報をお知らせするとの観点から、当局のホームページに米軍から提供された情報について掲載し、広くお知らせする」ことになりました。



遺失物の形状等 ○フレア本体は飛行中に分解し充填物が落下しました。○フレア本体は円柱状の形をしており、充填物はその本体の中に入っています。フレアの充填物は、錆びた金属片のように見えます。充填物の大きさ、長さ約 30～33 cm、重さ約 130g です。○フレアとは航空機の防御に使用されるものであり貨物として搭載するものではなく、機体外部に取り付けます。○落下した充填物は、有害物質であり、持ち上げたり触れたりすべきではありませんが、そのまま放置されている限りは自然発火の危険性はありません。また地上に落下した場合の土壌汚染はなく、水中に落下した場合も水質汚染はおきません。(写真：ドイツ・ラムシュタイン米空軍基地でフレアを発射している様子。米空軍 HP)

横田基地所属の新型輸送機C-130J-30 8、9号機が12月21日、横田着陸



12月21日15時27分、横田基地配備となる新型輸送機の8号機 C-130J-30 (YJ 15-5839) が着陸しました。

“5AF”と書いてあり、第5空軍司令官指定機の様です。

(写真：全体が写っている機体)。続いて15時44分、9号機 C-130J-30 (YJ 08-8605) が着陸しました。5号機 (08-8604) の続き番号で、ドイツ・ラムシュタイン米

軍基地所属だったようです。(写真：尾翼に605が書いてある左手前の機体。写真は米空軍 HP)

普天間第2小学校の校庭に米軍ヘリ 7.7kgの窓落下 6日後飛行再開



4年生と2年生が体育の授業をしていたその間に、7.7kgの窓が落下しました。児童から10mきり離れていませんでした。まさに恐怖です。翌日17人の児童が学校を休んだそうです。校長も米軍機の学校上空の飛行禁止を訴えました。

しかし米軍は、「飛行しない」とは言いません。

12月20日、日本平和委員会は衆院会館で外務省、防衛省に対して、米軍普天間基地のヘリ事故と飛行再開に抗議しました。岸松江代表理事、千坂純事務局長、沖縄の方とともに、横田撤去の会の高橋代表、窪田事務局長も参加しました。

(写真上：普天間第2小学校、下：横田基地で飛行もした事故機)



埼玉・飯能市で「自衛隊機の事故を風化させない集い 2017」

(No. 311 裏面)

12月16日(土)、埼玉県入間市で、「埼玉の空が危ない 自衛隊機の墜落事故を風化させない集い 2017」が開催されました。墜落事故は、1999年11月22日に航空自衛隊入間基地所属の自衛隊機が狭山市の入間川河川敷に墜落した事故です。

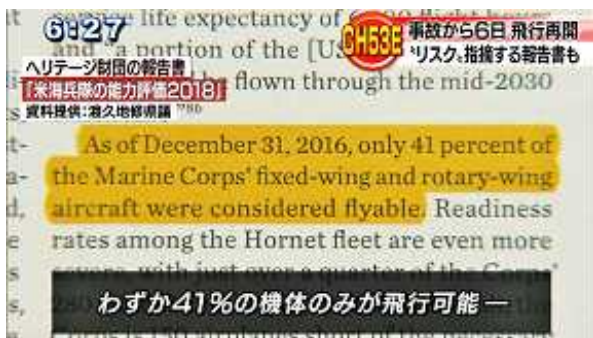
主催は、所沢基地周辺の所沢、狭山、入間、飯能、日高の5市の市民らでつくる実行委員会で、約150人が参加しました。

日本共産党の塩川鉄也衆院議員は、「現在の入間基地では大型輸送機C2の配備計画や、隣接する留保地への自衛隊病院と災害対処拠点の設置計画により、海外の戦場への「輸送」と「衛生」(軍事医療)の兵站拠点化が進められている。」と報告し、入間基地の強化・拡張計画に反対するたたかいの方向を示しました。

横田基地の撤去を求める西多摩の会の高橋代表も招かれ、横田基地の機能強化の数々と、毎月第3日曜日の座り込みの事など話しました。



海兵隊航空機 飛行可能は41%のみ 米有力調査機関ヘリテージ財団



(琉球新報より) 米軍の軍事力を年次的に評価している米シンクタンクのヘリテージ財団の2018年版報告書によると、米海兵隊の全航空機で飛行可能な機体が昨年末時点で41%にとどまっていることが18日分かった。16年版では81%だったが悪化した。そのうち、普天間第2小で窓を落下させたり、東村高江の畑で不時着・炎上したりするなどの問題が相次ぐ

CH53E大型輸送ヘリの態勢も、後継機のCH53Kの開発遅れで、「重空輸への所用を満たすには不十分」と問題視している。報告書はその上で「機体の老朽化と飛行時間が削減される事が組み合わせられると、人的エラーと、機械的エラーの両方による飛行中の事故の危険性が高まる」と事故多発の可能性にも言及している。18日の沖縄県議会米軍基地関係特別委員会で渡久地修典議員(日本共産党)が報告書を紹介した。渡久地氏は「米国は墜落の危険を認識している。それが沖縄で飛んでいると強調した。その上で、「(一連の事故も)起こるべくして起きた事故だ。飛行再開したらリスクが高まる」とCH53Eの飛行再開に警鐘を鳴らし、飛行禁止の必要性を訴えた。

12月17日(日)の横田座り込みは寒い中126人が参加 22日のオスプレイ横田

配備反対のスタンディング 羽村で署名36人



2018年もよろしくお願い致します!